

1. 3. トドマツ植栽地の和牛放牧

1. 試験担当者

北海道支場経営部営農林牧野研究室長 中 田 功 ほか

2. 試験目的

トドマツは北海道の国有林の造林面積の過半を占める樹種である。

トドマツ造林地の牧牧利用ができれば乳、肉牛の増進に寄与するところが大きい。この見地から新植造林地がうっ閉するまでの間肉牛を（本年は育成乳牛）を放牧して、林主蓄従の複合的経営技術を究明しようとする。

3. 昭和44年度の経過とえられた結果

44年度は全刈火入地拵地7.91 ha を自然草地4.植栽列間に牧草を導入した改良草地4の8牧区に区画し、それぞれの設計通り春に実行した。

自然草地1回、改良草地2回の下刈りと、秋の補植を行なった。7月下旬の草量はha換算、改良草地の牧草帯は6～10トン、野草帯6～9トンで近似しているが、食草については前者は6～9トン、後者は3～7トンでかなり差がある。自然草地7～10トンのうち食草は5～8トン、利用率を考慮すれば、自然草地の牧養力は、改良草地に比べかなり低い。

放牧施設の牧槽、給水、庇蔭舎などの施設は完備した。

4. 昭和45年度の試験計画

植栽2年目の本年は（育成乳牛12頭供試借入6頭1群で）改良草地（4牧区）自然草地（4牧区）に5月～10月まで輪換放牧を行なう。

放牧日数算定基準 利用率を牧草80%、野草40%として放牧牛生体重の20%を消費基準とする。

調査項目 家畜 入出牧時に体重測定、月1回検診を行なう。

植生 牧区毎に植生調査区を設け、H、O（ペンファンド法）測定

草量 刈取法による。

林木傷害 全植栽本数の約半数を固定調査木とし年1回林木の成育に影響すると思われる傷害を調査する。